

ポリネシア諸語の関係節構造の分類について*

塩谷 亨

Classification of Relative Clause Constructions in Polynesian Languages

Toru SHIONOYA

キーワード：ポリネシア諸語 文法 関係節

1. ポリネシア諸語の対照研究の意義

ポリネシア諸言語は地理上のポリネシア、つまり、ハワイ諸島とニュージーランドとイースター島を結んだ三角形の中及びミクロネシアとメラネシアの外域ポリネシアと呼ばれる部分で話されている同系の言語群である。

ポリネシア諸語はお互いに広い海を隔てているにもかかわらず、語彙が非常に類似している。例えば、「名前」という名詞は *inoa* (ハワイ語)、*i'oa*(タヒチ語)、*igoa* (サモア語) と非常に良く似た形であり、また、「飲む」という動詞は *inu*(ハワイ語)、*inu* (タヒチ語)、*inu* (サモア語) と全く同じ形である。このように語彙が非常に良く似ている一方で、文法や語法ではかなり差異が見られる。例えば、文法的な類型で見ると、サモア語は能格型であるのに対しハワイ語などは対格型と大きく違っている。その他、文法を詳しく見ていくと様々な差異が存在することが分かる。従って、よく似た形の単語で組み立てられている文について、その文法的な振る舞いが違っているというたいへん興味深い状況が多く見られる。

ポリネシア諸語間の対照研究ではお互いに単語が非常に良く似ているので、ある言語のどの構造が別の言語のどの構造と対応するのか非常に見やすく、文法的な振る舞いの違いが自然と浮かび上がってくる。そのようなわけで、ポリネシア諸語の対照研究はポリネシア諸語全体の特徴を示すだけでなく、個々のポリネシア諸語の個別文法分析にも多くの示唆を与えうる有益な作業であると考えられる。本研究では関係節構造という文法現象をとりあげ、複数のポリネシア諸語の例を並べて観察し、ポリネシア諸語の関係節構造のより深い理解を目指すものである。

2. ポリネシア諸言語の関係節構造の分類案

2.1. 四つの分類基準

いろいろなポリネシア諸語の関係節を観察した結果、ポリネシア諸語の関係節構造の分類のための重要な基準を以下の四つにまとめた。

- i) 関係節の基となる文の述語部分は動詞句か名詞句か
- ii) 先行詞に対応する代名詞が関係節内にあるかないか
- iii) 関係節を導く冠詞要素の有無
- iv) 先行詞の有無

2.2. 基準 i)

ポリネシア諸語の多くにおいては、文の種類として、〈時制マーカ―＋動詞〉を述語の中核とする動詞文と、〈前置詞＋名詞〉を述語の中核とする名詞文の二つが存在する。それぞれのタイプの述語に対応してそれを基とした関係節構造があり、お互いに構造的に異なっている。

2.3. 基準 ii)

ポリネシア諸語の関係節においては、先行詞に対応する要素の関係節内での表れ方として、先行詞に対応する代名詞要素が関係節内にある場合と、先行詞に対応する要素が関係節内では表れない、つまり、空白として表れている場合の二種類がある。

2.4. 基準 iii)及び基準 iv)

ポリネシア諸語の関係節においては、〈時制マーカ―＋動詞〉という通常の文の述語と同様の構造のものがそのまま先行詞の後ろに置かれる場合と、〈時制マーカ―＋動詞〉の前に冠詞要素（指示詞や所有形も含む）が付加されたものが先行詞の後ろに置かれる場合の二つのタイプがある。

基準 ii)による二つの分類

タイプ 1 先行詞＋〈時制マーカ―＋動詞〉...

タイプ 2 先行詞＋冠詞要素＋〈時制マーカ―＋動詞〉...

上記のタイプ 2 の関係節と同じ構造で、先行詞を欠き、冠詞要素以下の節全体が一つの名詞節として用いられる場合もある。(基準 iv))

3. 関係節構造の分類基準の適応例

3.1 動詞句述語が基になる関係節

3.1.1 関係節を導く冠詞要素無し

3.1.1.1 先行詞に対応する代名詞要素が関係節内に無し

動詞句述語に相当するものが直接先行詞の後ろに置かれている場合で、関係節

内では先行詞に対応する代名詞要素がなく、それに対応する部分は空白となっている場合である。先行詞が関係節内の主語に相当する場合にこの例が見られる。関係節は時制マーカーに導かれる動詞述語文である。

< 先行詞 >+時制マーカー+動詞.....

(T 1) te ta'ata i tauturu iā 'oe
the person 完了 help you
「あなたを助けた人」

言語によっては先行詞が関係節内の目的語に相当する場合でもこれと同じ構造の関係節を用いる。

3.1.1.2 先行詞に対応する代名詞要素が関係節内に有り

この事例として最もよく見られるものは、先行詞に対応する要素が前方照応代名詞の ai として表れる場合である。先行詞が関係節内の場所、時間などの斜格名詞句に相当する場合によく見られるが、目的語の場合にこの手法を用いる言語もある。

<先行詞>+時制マーカー+動詞+ai

(T 2) te 'oire e tāpae ai tātou
the town 未完了 arrive we
「私達が到着する町」

また、先行詞に対応する要素が人称代名詞で表れる場合もある。その中でもよく見られるのは<与格前置詞 i/iā+ 3 人称代名詞>として関係節内に表れる場合と、3 人称の所有形として表れる場合である。人称代名詞は単数・複数に関わらず 3 人称単数を用いるのが一般的であるが、言語によっては 3 人称複数など他の人称代名詞が用いられると指摘する記述もある。

<先行詞>+ 時制マーカー+動詞..... +与格+ 3 人称代名詞

(T 3) te 'aito i hōro'a hia te rē iā-na.
the warrior 完了 give 受身 the prize to-him
「褒美を与えられた戦士」

<先行詞> 所有形+名詞.....

(H 1) ka mea i 'oi aku kona nui (Mookini 1985)
the person 完了 be superior his size
「大きさが秀でた人」

また、上記の<所有形の代名詞+名詞>という形ではなく<定冠詞+名詞>という形が用

いられる場合もある。この例は<先行詞に対応する代名詞要素が関係節内に無し>の事例に入れるべきと考えられるかもしれないが、<定冠詞+名詞>は<所有形の代名詞+名詞>の代用と考えてここに分類した。実際、関係節に限らず<所有形の代名詞+名詞>の代用として<定冠詞+名詞>が用いられることがしばしばある。

< 先行詞 >..... 定冠詞+名詞.....

(T 4) te mau tamari'i i tāpa'o hia te i'oa...
 the 複数 children 完了 note 受身 the name
 「名前が記入された子供たち」

3.1.2 関係節を導く冠詞要素有り

3.1.2.1 先行詞有り

<時制マーカー+動詞>の前に何らかの冠詞要素が付加されている場合である。冠詞要素としては、定冠詞、所有形(冠詞要素と所有格の融合として分析できる)などがよく見られる。

< 先行詞> +冠詞+時制マーカー+動詞

(T 5) te ta'ata te i tauturu iā 'oe
 the person the 完了 help you
 「あなたを助けた人」

<先行詞>+ 所有形 +時制マーカー+動詞

(T 6) te fare tā tōna metua tāne i hāmani
 the house 所有・his father 完了 build
 「彼の父親が建てた家」

T6の所有形 tā tōna metua tāneは「彼の父親の」という意味である。関係節を導く所有形では、その所有者は関係節の主語を表わしている。T6でも i hāmani「建てた」の主語である tōna metua tāne「彼の父親」が所有形として関係節を導いている。

3.1.2.2. 先行詞無し

先行詞となるべき名詞句が存在せず、<冠詞要素+時制マーカー+動詞...>の部分全体で「～する人・もの」等の意味を表わす名詞節を形成する場合である。

冠詞・時制マーカー+動詞

(T 7) 'O vai tē tauturu iā 'oe?
 前置詞 who the・未完了 help you
 「あなたを助けたのはだれ」

T7 の *tē* は定冠詞 *te*+ 未完了マーカー *e* として分析できるものである。

所有形 +時制マーカー+動詞

(T 8) E aha *tā* 'outou i hina'aro?

what our 完了 want

「私達がほしかったものは何だ」

3.2 名詞句述語が基になる関係節

ポリネシア諸語の多くには名詞句述語文が存在する。その構造と例は以下の通りである。

— 述語 — — 主語 —
<前置詞+名詞> <名詞句>

(T 9) *nō* Vahine *terā* 'ahu (Lazard et Peltzer 2000)

所有 Vahine that clothes

「あの服は Vahine のです」

名詞句述語が基になる関係節では先行詞に対応する代名詞要素が関係節内に有る場合がほとんどである。最もよく見られるのは<所有・所属を表わす前置詞 *no/na*+3 人称代名詞>を述語部分とする関係節である。3.1.1.2.節の場合と同じく、単数・複数に関わらず 3 人称単数を使うのが一般的である。

<先行詞>+ *no*(所有)+3 人称代名詞.....

(T10) *te ta'ata nō -na teie fare*
the person 所有 -3 人称単数 this house

「この家を所有している人」

また、<斜格前置詞 *i/iā*+3 人称代名詞>を述語部分とする関係節もある。

<先行詞>+*i/iā*+3 人称代名詞...

(H 2) *ka mea iā ia ke kī* (Nupepa Kuokoa)
the person to him the key

「鍵を管理する人」

この他、先行詞が<場所>である場合には、<前置詞+指示代名詞「そこ」>を述語部分とする関係節も見られた。

<先行詞>+前置詞+「そこ」...

(T11) te fenua nō reira mai 'oe
the land form there you
「あなたがそこから来た土地(=出身地))

4. 結び

以上、主にタヒチ語とハワイ語の例を用いて関係節の分類を示したが、同様の構造の関係節が他のいろいろなポリネシア諸語でも見られる。もちろん上述の全てのタイプの関係節が全てのポリネシア諸語で見られるわけではない。タヒチ語やハワイ語以外にも上記のほとんどのタイプの関係節をカバーする言語もあるし、上記のうちのごく一部のタイプの関係節しか用いない言語もある。いろいろな関係節のうちいくつかは地域的に偏った分布を示すものもある。それらについては現在取り組んでいる科研費による研究の報告としてまとめる予定である。

今回提示した関係節の種類以外に、特殊なものとして、否定の存在文を基とする関係節、行為者強調文を基とする関係節などがある。紙面の関係で詳しい分析は示せないが、いずれも今回の四つの分類基準の適用は可能である。

謝辞

* この発表は文部科学省科学研究費補助金基盤研究(C)ポリネシア諸語の関係節構造に関する対照研究(課題番号 15520239)の研究の一部である。室蘭認知科学研究会第44回大会出席者の方々には貴重なコメントをいただいた。この場を借りて感謝の意を表したい。タヒチ語の例文にはそれぞれ(T1)から通し番号を付した。これらの例文はLazard&Peltzer(2000)を基にして作成した例文リストをRoiti Sylvaさんにチェックしてもらったものである。また、ハワイ語の例文にはそれぞれ(H1)から通し番号を付し、出典を明記した。

参考文献

- Pukui, Mary K. and Samuel H. Elbert. Hawaiian Dictionary. Honolulu: University of Hawaii Press. (1986)
Lazard, Gilbert and Louise Peltzer. Structure de la langue tahitienne. Paris:Peeters. (2000).
Mookini, Esther T. O na holoholona wawae eha o ka Lama Hawaii. Honolulu: Bamboo Ridge Press. (1985)
Nupepa Kuokoa. (ハワイ語新聞)

執筆者紹介

所属：共通講座

Email：shionoya@mmm.muroran-it.ac.jp